

科目名		授業形態	担当教員名	
疼痛理学療法学		講義・演習	松原 貴子・下 和弘・大賀 智史・服部 貴文	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
疼痛学の基礎ならびに疼痛の発生メカニズム、慢性疼痛の病態など疼痛の神経メカニズムについて学ぶ。また、疼痛の多面性を評価・治療するために、多角的かつ包括的なアセスメント法とリハビリテーション介入法（特に理学療法のなかでも、患者主体の運動療法）について習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 疼痛の基礎、病態、神経メカニズムについて説明することができる。 2. 疼痛の多面的アセスメント法について列挙することができる。 3. 疼痛のリハビリテーション介入法について説明することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	疼痛の疫学、定義・分類①			
2	疼痛の疫学、定義・分類②			
3	疼痛の神経生理学① 疼痛の伝達経路			
4	疼痛の神経生理学② 疼痛を抑制するシステム			
5	疼痛の神経生理学③ 疼痛の発生メカニズム			
6	急性痛とは			
7	慢性痛とは① 病態			
8	慢性痛とは② 神経メカニズム			
9	疼痛のアセスメント法① 評価の考え方			
10	疼痛のアセスメント法② 感覚評価、身体機能・活動評価			
11	疼痛のアセスメント法③ 情動・認知評価、社会的QOL評価			
12	疼痛のリハビリテーション介入法① リハビリテーションの有効性			
13	疼痛のリハビリテーション介入法② 運動療法(1) 運動による鎮痛			
14	疼痛のリハビリテーション介入法② 運動療法(2) 行動医学との組み合わせ			
15	疼痛のマネジメント			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	疼痛の基礎や神経メカニズムについて説明でき、評価や介入の方法を列挙できる点を評価基準とする。		
レポート				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
ペインリハビリテーション入門	沖田実・松原貴子	三輪書店		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
臨床実習や卒後の実臨床で活用、実践できるように、具体例も示しながら講義するので、疼痛に対する正しい理学療法を習得してほしい。適宜、実習も交えて学習を行う予定である。 助手 丹羽 祐斗・堂北 絢郁				